

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



# 「たい」のあふれる時津小



↑こちらからも↑

令和5年 5月17日(水) 発行人：校長 森内 秀学

## 「8割学習」で子どもを伸ばす



運動会が目前に迫ってきました。全校児童が一堂に会し、指示を聞いたり、声を出したり、揃って動いたりする経験は、実に3年ぶり。練習による疲れもピークです。

だからこそ目立つのが、我慢できない子どもの姿です。つい、土をいじる。つい、隣としゃべる。つい、ダラダラと歩く……。

これが我が子でしたら、「ほら、ちゃんとしなさい!」「がんばりなさい!」と言いたくなるころでしょう。でも、本校の職員は、ちょっと違います。「こんなにきついのに、しっかり頑張っている人がたくさんいますね。」とか、「土をいじらず、しっかり先生の話聞いてくれている人がいます。ありがとう。」などと語りかけるのです。すると、ダラダラしていた子どもや、土いじりをしていた子が、サッと姿勢を正します。誰も傷つかず、嫌な雰囲気にならない、見事な指導です。

これは、いわゆる教育技術の一つで、「8割学習」とも呼ばれます。できていない2割の子どもにダメな点を指摘するのではなく、できている8割の子どもの良い点を誉めることで、2割の子どもが自分で気づくようにするという指導法です。集団の力によって子どもが育っていくのは、こうした教師の働きかけがあってこそです。

そんな日々の取組の成果が、日曜日にはきっとお見せできるはずですよ。ご期待ください。



### 「ヒルザキツミソウ」満開

運動会の本部テントの後ろには、この花が咲き誇っています。「ヒルザキツミソウ」という多年草です。大正時代に日本に入ってきた花です。可憐な花なので、草刈りの時も刈りませんでした。応援の合間にでも、ぜひご覧ください。



### 自立活動で、目と体の協応動作特訓中

ある日、特別支援学級の前を通ると楽しそうな声が聞こえてきました。狭い幅でまっすぐ並べた空のペットボトルを、倒さないように歩く練習をしている子どもたちの声でした。目で見てイメージどおりに体を動かすことができるようになると、文字も上手に書けるのだそうです。自立活動は、子どもに応じてこのような様々な学習に取り組んでいます。

